

## 《 訃 報 》

### 神戸和雄事務長補佐

本学部事務長補佐（総務担当）神戸和雄氏は、去る12月1日（日）自宅附近において自動車事故のため急逝されました。享年49才でした。

同氏は昭和34年6月東北大学庶務部人事課に奉職され、昭和39年5月文部省人事課給与班、昭和43年4月国立近代美術館庶務課人事係長を歴任、昭和54年4月本学部庶務主任となられ、昭和56年4月本学部事務長補佐に昇任されました。

同氏はこのような多彩な経歴に基づく豊富な知識と経験により理学部の管理・運営を円滑に推進



するために事務長補佐として十分に力を発揮されました。まだこれからご活躍が期待される最中、若くして亡くなられたことは痛恨にたえません。同氏のご功績とお人柄をしのび深く哀悼の意を表し謹んでご冥福をお祈り申し上げます。（理学部）

## 神戸和雄氏を悼む

有馬朗人（理学部長）

理学部事務長補佐神戸和雄さんが急逝されたことは、まことに驚き、悲しむことであった。先ず御冥福を心から祈るものである。

現在東京大学が直面している問題において神戸さんの力に頼っていることが非常に多かった。例えば専門行政職の問題、60年定年制施行後の処置、シンガポールとの国際交流等々である。そのどれをとっても神戸さんの精力的な活動によって支えられて来たことである。また最近行われた生物学国際シンポジウムでの神戸さんの尽力は大変なものであった。

神戸さんの人柄は内に確固たる信念を持ちながら、人の言をおだやかによく聞く人であった。その上実に適切な処置をしてくれる人で、私は全幅の信頼を置いていた。神戸さんはまた人の気持ちをよく汲む愛情のあるそして誠実な人であった。その愛情のある眼で理学部全職員の動勢をよく見ており、重要な場合常に判断を誤らなかつた。

神戸さんは大変責任感の強い人であった。シンガポールとの国際協力のため、同国より一人の数学者が東北大学へ行くため成田空港へ早朝に着く

ことになった。私は電報を打って上野へ来てもらったらいよいよと言ったが、神戸さんは黙って成田へ行って東大へつれて来た。しかし迎えに行ったことなど一言も言わなかつた。ただその数学者が無事に気持ちよく日本に滞在してくればよいという責任感と愛情の発露であった。私はその行動に心から敬意を表したのである。

神戸さんはロマンチストであった。酒が入ると神戸さんは私が古い歌が好きだからと、幾つかの歌をうたってくれた。私も一緒に蛮声を張りあげたのは11月22日の夜であった。その次の週、私は神戸さんがなんとなくつかれたと言うか淋しそうな姿が気になっていた。11月29日仕事の話が終ってもなかなか神戸さんは立ち去らなかつた。

私は何時も優れた同僚や、事務職員の方々にめぐまれて幸であると感謝している。その中でも特に信頼していた神戸さんを急になくしたことは、悲しんでも悲しみ切れるものではない。神戸さんの魂が我々を今まで通り温い目で見まもって下さるのを祈るのである。